



しなやかに変化し続ける学校

聖だより

令和2年 5月15日(金)
[2020] 第4号

多摩大学
附属 聖ヶ丘中学高等学校

地球人生は素晴らしい

奥井 理*

地球という惑星に生まれた星人、それが人間。

受精から考えて18年前
僕は、夜空に広がる宇宙も
この地球も

人間のことも知りしなかった。

何一つ知りしなかった。

それが、何かの間違いで僕は地球星人として
生まれた。

人間には歴史があった。
人間には社会があった。

宇宙から見ると極めて
奇妙な建物を
人間自ら作り出してきた。

地球人生は
本当に素晴らしい。

しかし、その素晴らしさも
勉強することで初めて気付く。

勉強のない地球人生は
サルやイヌと同じだ。

人間の素晴らしさを分るためには
勉強するしかない。

勉強すればするほど
課題が出てくる。
限りない世界だ。

地球人生の素晴らしさを感じるためには
それを好きになるしか他はない。

それにしても
人間って面白い存在だと思う。

宇宙的に見ても
本当に面白いと思う。

生まれてきて
本当に良かった。

出典:奥井 理[1998]『19歳の叫び』北海道新聞社

知の冒険者たれ!

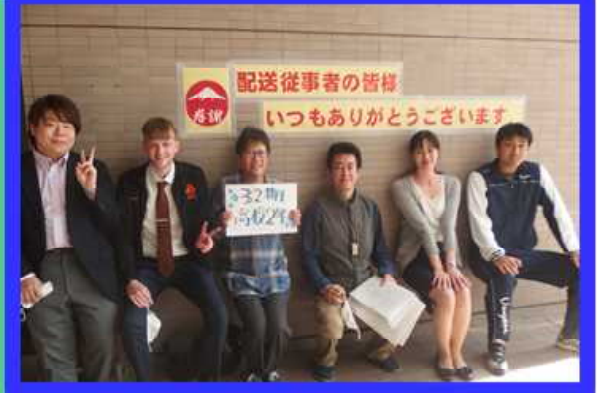
なぜ、学習しなきゃいけないのだろうか？
これは思春期の誰もが抱く、素朴な疑問の一つです。かくいう私も中学校の時、宿題をやりながら無意味さを感じ、そう思ったものです。そんな私の中学・高校時代とえば、「走る」ことに夢中で、授業に集中せず練習計画ばかりを立てていました。そのせいか、学習に身が入らず、走っている時以外は、自宅で小説を読んだり、ラジオの朗読番組を聴いていました。また、友人と共に演劇鑑賞サークルの会員になり、月に一度は演劇を見たり、自宅の数軒先の映画館には、兄弟でよく映画を見に行きました。その内、近くの新聞社の支社に出入りするようになり、報道写真を見せてもらっている内に社会的な出来事への関心が高まり、次第にドキュメンタリーに興味を持つようになりました。当時はベトナム戦争の最中、なぜ事件が起きるのか？に関心を抱くようになりました。それが大学で「地理学」をめざす理由の一つになりました。

大学では、1年生の時に会った先生の研究室を毎週のように訪ね、どんな本や論文を読めばいいか、それを読んだ感想などいつも1時間以上話しました。それが縁で、1年次の夏には、専門課程の先輩たちに混じってフィールドワークに参加することができました。その経験が「学ぶ」ことにめざめた理由です。つまり、世代と共に変化する新しい自分に出会うこと、それこそが「学ぶ」意義だと気づいたゆえんです。「教わること」ではなく、自ら疑問を持ち、調べる力を持った人、つまり知の冒険者をめざしてほしいのです。

* (おくい みがく) 1976年札幌市に生まれる。1991年北海道道立札幌西高校入学。美術部に入る。1993年学生美術全道展「テレビと死」油彩で奨励賞受賞ほか多数入賞。卒業後、美大をめざし、札幌美術学園で学ぶ。1995年再度、美大をめざして上京、立川美術学院で学ぶ。同年7月17日立川市内にて交通事故のため死去。2003年、両親が札幌市中央区の自宅に「奥井理ギャラリー」を開設。

先生紹介

専任の先生方を学年別に紹介します。



5月1日に開催された専任・非常勤の先生方による拡大職員会議の様子。Social distanceを保って!